



おがさわら

議会だより

第 110 号

平成 25 年 11 月 28 日発行 発行／小笠原村議会 編集／議会だより編集委員会 電話 04998-2-3118



姉妹都市の南アルプス市市制施行十周年記念式典に参列

平成 25 年第 3 回村議会定例会

第 3 回定例会（議案審議）	2
一般質問	4
委員会報告	8
議会の動き・編集後記	10

第 3 回小笠原村議会定例会
平成 25 年 9 月 11 日～9 月 27 日

条 例

【小笠原村総合計画条例（追加議案）】

【職員の給与に関する条例の一部改正】

どこを変えたの？



管理職手当を国家公務員の規定に準じ定額化しました。

【反対意見】

管理職手当の定額化は職員の能力・勤務評定が反映されないため、職員のモチベーションを下げる。国の規定に準じているのではなく、村の管理職手当の平均額に近い数字を国の上級課長職の規定に当てはめただけ。国の規定に準じるならば、国の下級課長職の金額にする等の議論がもっと必要。管理職手当の実質的な値上げにもなっている。以上の理由で賛成できない。

（一木議員）

【賛成意見】

現在国は東日本大震災の復興財源の確保が重要課題となっており、今回の改正にはその視野が含まれている。それが実際開けてみると一木議員の言ったような面もあるかもしれない。しかし、今回の改正は国と都の指導によるもので、これを無視して村の行政を行うべきではない。指導に従わない場合、どんな反作用が起きてくるか大変心配。指導に従った結果なのでこの案に賛成する。

（高橋議員）

予 算

【一般会計補正予算（第 2 号）】

【国民健康保険特別会計補正予算(第 2 号)】

平成 25 年

議 小 第 会 笠 3 定 原 回 例 村 会



すべて賛成多数で議決されました。
※分かりやすくお伝えするため、正式名称とは違う表記をしているところがあります。ご了承ください。

報 告

【出資法人の経営状況について】

ラムリキュール(株)の事業や決算の報告です。

【継続費精算報告書について】

小中学校(父島)のグラウンド芝生化

【小笠原村健全化判断比率及び資金不足比率の報告について】

専 決 処 分

【和解及び損害賠償額の決定について】

決 算

【一般会計ほか特別会計歳入歳出決算の 認定（委員会付託後継続審議）】

委員長 高橋研史
副委員長 一木重夫

※決算特別委員会を設置し、付託しましたが、台風により審議の日程調整がつきませんでした。

これにより、決算の審議は、12月定例会までに行う予定です。詳しい審議内容は、次号の議会だよりでお知らせいたします。

次回は12月

議会だよりは、紙面の都合上、文章や内容を割愛したり、要約したりしてお伝えしています。ぜひ、傍聴してみてください。

地デジの11チャンネルも
ご利用ください。

- 【簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)】
- 【宅地造成事業特別会計補正予算(第1号)】
- 【介護保険（保険事業勘定）特別会計補正
予算（第1号）】
- 【介護保険（介護サービス事業勘定）特別
会計補正予算（第2号）】
- 【下水道事業特別会計補正予算（第1号）】
- 【浄化槽事業特別会計補正予算（第1号）】

そ の 他

【東京都島嶼町村一部事務組合格約の 一部改正】

島嶼会館の住所変更に伴う条文の修正をしました。

【人権擁護委員の推薦】

南美幸氏、佐藤直人氏を人権擁護委員に推薦することに異議なしと答申しました。

【議員派遣】

南アルプス市市制 10 周年式典に議員を派遣しました。

佐々木 幸美 議長 出張報告



7月2日 環境副大臣に要望書提出。（村長同行）

7月3日 第86回小笠原諸島振興会審議会に出席。（村長同行）

7月8日 東京都環境局長に要望書提出。（村長同行）

7月31日 総務省、防衛省に要望書提出。（村長同行）

東京都町村会同議長会合同会議に出席。平成26年度東京都予算要望運動に参加。

8月2日 八丈町で開催されましたアイランドリーグ出席。
53日



村民の声を村政に問う!!

一般質問

9月定例会



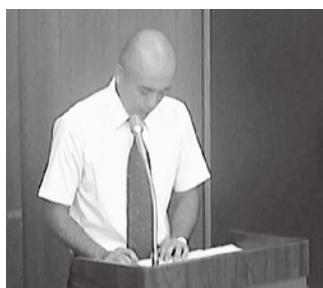
第3回定例会は、7名の議員から15件の一般質問がありました。

一木重夫議員

医療について

一木議員 ①村民の定住

には内地との医療格差が課題。急患搬送のため新航空路の模索とともに、小野寺防衛大臣が小笠原に提唱した回転翼で上昇し後は固定翼で飛ぶチルトローター機導入はどうか。②助産師のさらなる活用は村民の声だ。助産師外来を定期開催し健診ができる仕組みづくりを求めたい。助産師や保健師の募集広報も、看護協会による助産師の求職活動手段等の調査を踏まえ、工夫すべきではないか。③役場の保健業務が優秀でメタボ指導率は極めて低い、それを維持する保健師の確保にどう対応するのか。非常勤職員、臨時職員での対応や



専門職の常時募集をしてはどうか。④医療職を目指す島っ子の奨学金制度を創設してはどうか。⑤新島嶼会館の宿泊費、急患搬送患者の減無料金について村独自の補助制度を創設できないか。搬送時、減無料金のパンフレットを渡してはどうか。

執行部

①チルトローター機を小笠原のような遠距離での急患搬送機として導入可能かは不透明だ。村は現在、民生安定のため、東京都運営の都営空港として定期航空路開設に向け努力を続けている。②現状では看護師、助産師とも定数確保に至っていない。助産師の募集広報は、村のホームページだけでなく、今後はナースセンターやハローワークなどを利用して、職員の確保に努める。助産師外来については、現行の産科医の年6回診療の中で対応し、まずは人材確保に向けて努力したい。保健師は非常勤・臨時職員等の補充的な人員の確保に努めていく。常時募集も検討していく。保健師は現状、父

島に2名配置。今後、1名を母島へ異動、常駐させる予定。④小笠原の医療の将来に向けた奨学金制度等の支援策は課題が多い。確かな制度とするためもう少し時間が欲しい。⑤新島嶼会館の宿泊について、村独自の支援を検討中だ。減無料金は村民共助の精神のあらわれだ。広報の方法も配慮する。

裁判所設置の要望を

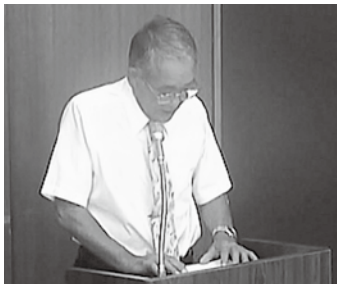
一木議員 小笠原には裁判所がない。三権分立の行政、議会、司法のサイビスが十分に受けられるのは、まちづくりの基本。八丈町、大島町、新島村には簡易裁判所がある。小笠原諸島でも、戦前には裁判所があった。アメリカ力施政権の時代にも米軍は裁判所を設置した。自由かつ公正な社会を形成するために、小笠原に裁判所の設置は必要不可欠。最高裁判所、法務省等に要望してはどうか。また、司法過疎地域の最たる自治体として、法テラスや法務省などに弁護士常駐や派遣の要望をしてはどうか。

村長 裁判所設置は関係機関に要望していきたい。総務課長 弁護士常駐要望も行っていきます。

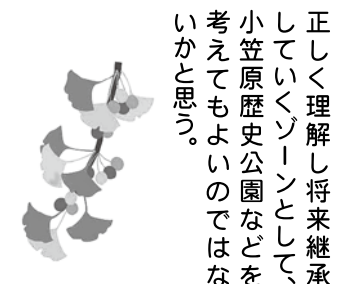
鯉江 満 議員

扇浦浄水場の跡地利用はどう計画していくのか

鯉江議員 扇浦浄水場の移設は、村民が安心して飲食に使える水道水供給という最重要な意味を持つ。予想される津波への危機管理、災害対策として、ハード面で一歩進んだのではないかと。行政の努力に感謝したい。建設中のその新扇浦浄水場が供用開始された後、現在の扇浦浄水場の跡地にどのような利用計画を考えているのか、その実施準備はどの程度進んでいるのか。



本的な考え方は変わらない。ただ、当時と比べ、世界自然遺産に登録されて来島者も増え、津波の浸水予測や被害想定など防災面で具体的な変更が出てきており、これらを視野に入れながら検討していきたい。総務課企画政策室長 扇浦遊歩道整備は平成12年度策定の扇浦地区整備実施計画に基づいている。貞頼神社周辺は公園として整備し、浄水場跡地は多目的広場とする計画だった。その考え方は継承しつつ、昨今の状況も踏まえ今後改めて検討をしていく予定だ。



鯉江議員 この問題は、平成21年第2回定例会の一般質問でも取り上げた。扇浦浄水場周辺には有形文化財の石碑があり、すぐ隣には小笠原諸島を発見した小笠原貞頼を祭った貞頼神社があつて、歴史的、文化的に高い評価を持つ重要な史跡地域だ。利用計画が明確でないようだが、跡地利用検討会議は、私の質問以降、何回実施したのか。



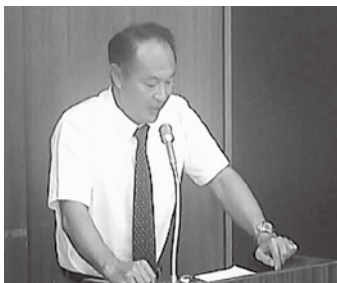
総務課企画政策室長 浄水場に絡む案件について個別には調整してきたが、跡地の利用そのものについての検討会議はまとめられては開いていない。

鯉江議員 やむを得ない部分もあるかと思うが、跡地利用の実施計画に入る前には、周辺住民や貞頼神社を守り維持管理している村民の意見を聞き、合意を得た上で慎重な検討をお願いしたい。一旦は多目的広場での利用としておくのもよいが、私見としては、島の歴史を正しく理解し将来継承していくゾーンとして、小笠原歴史公園などを考えてもよいのではないかと思う。

高橋 研史 議員

小・中学生の学力状況は

高橋議員 現在、ゆとり教育から基礎学力の重視へ国の教育改革が進んでいる。①村立小・中学校で実施している学力調査の内容や目的、結果、どうしてこの時期に学力向上が必要なのか、②最近の調査結果で低下傾向があるか、その要因と対応について伺う。学習環境については、学校側と児童側でどう違うか。



教育課長 ①村では、国の学力調査、東京都の学力調査のほか、村独自の学力調査も実施している。都の調査は平成15年度から5科目で実施されてきたが、平成19年度から全国学力調査が2教科で始まり一歩引いた形になった。村の学力調査はそれらを補完する形で平成20年度から導入し、小学校は2年生以上で国語、算数、さらには4年生以上は理科、社会も加え、中学校では全学年で国語、数学、理科を加えて実施している。今年度は5月1日に調査が終了し、全国平均

より低い数字も出ていますが、一時的なもので、村の学力が低下傾向にあるとは捉えていない。学習指導要領の改定に伴い、国が3教科、東京都が5教科へ調査科目を増やしており、今後、学校の授業改善に役立っていくと確信する。学力は、思考力、判断力を支え、個性を引き出し、さまざまな能力伸長の基礎となる力であり、今回の学習指導要領改定は、国民の切実な願いと受けとめている。②学力低下の傾向は全国的な問題であり、その視点から見ると、社会が豊かになって勉強しないか、食べていけない不安がなくなり、個性重視の風潮、価値観の多様化から学力を軽視する考え方も出てきて、ゆとり教育

高橋議員 ここ数年、小笠原の環境は世界遺産登録を契機に激変し、光ファイバー開通、観光客数、島の人口増もあり、島の中が忙しくなっている。住宅内での学習環境もよいとも言えなくなっているのではないかと。子どもたちの学力が一時的にせよ低下したのは、注意すべきだ。環境変化に敏感な子どもたちのシグナルに注視してほしい。教育課長 子どもたちの学力調査の結果の動向については、村を取り巻く環境の変化に関連性があるか今後も注視してい

育がそれらを正当化することになった。子どもたちの能力伸長は学校の経営戦略と各教員の授業力と情熱にかかると。教員の資質を高める研修を充実させ、子どもたちの学習環境を整えていく考えだ。学習環境については、通信環境が整備されたこともあり、本土との違いはほとんど存在しない。島の穏やかさの中で、教員も純粹に教育に取り組んでいる。子どもたちに競争心や向上心が生れにくいところもあるが、心身とも健康に成長し、いじめなど存在していない。

島内環境の変化に注視を

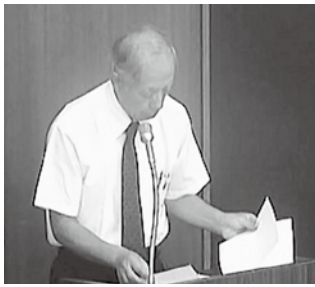
片股 敬昌 議員

防災訓練について

片股議員 今回の防災訓練の総括を伺う。携帯電話、防災無線が届いていないエリアがある課題にどう対応するのか。

総務課長 早期避難を徹底することで人的被害をなくすため、津波警報の情報伝達から高台への避難にかかる必要時間の確認も内容とした。大きな混乱はなく、避難ほか予定どおりに行えた。電波状況は地形の影響もあり技術的に難しいところもあるが、可能な方法を検証していく。現状のフォローとして、警察、海上保安署、消防団により巡視、避難誘導を行っている。

認知症への取組みは
片股議員 ①認知症サ



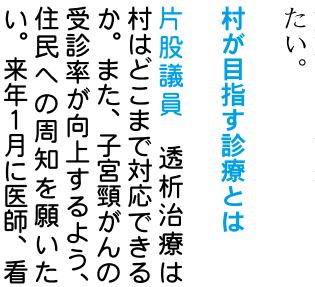
杉田 一男 議員

防災訓練の取組みは

杉田議員 防災訓練参加者が余りに少ない。実施側と参加側と慣例的に

杉田議員 防災訓練参加者が余りに少ない。実施側と参加側と慣例的に

杉田議員 防災訓練参加者が余りに少ない。実施側と参加側と慣例的に



護師等が硫黄島へ行く目的は。

医療課長

腹膜透析、血液透析の2種の透析療法は通院の問題や施設整備、専門職の人員確保、状態悪化の際の搬送対応など問題が多く実施困難と言わざるを得ない。硫黄島では、医務官と患者情報の円滑な送りのため意見交換、情報収集をする。

村民課副参事 子宮頸がんは女性が安心受診できる環境整備に努めたい。

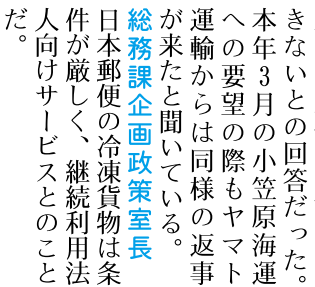
冷凍品の宅配について

片股議員 内地から宅配便で冷凍品を送れない課題への対応を伺う。

総務課企画政策室長 ヤマト運輸による冷蔵・冷凍便は、小笠原から本土向けだけ取り扱われ、各種団体連名による改善要望に対し、①毎日の船便就航でなく荷物輸送サイクルが担保できず、②現地での温度管理設備整備にめどが立たない理由を挙げ、できないとの回答だった。

本年3月の小笠原海運への要望の際もヤマト運輸からは同様の返事が来たと聞いている。

総務課企画政策室長 日本郵便の冷凍貨物は条件が厳しく、継続利用法人向けサービスとのことだ。



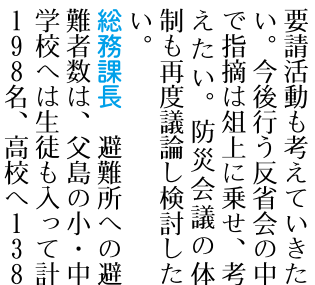
杉田 一男 議員

防災訓練の取組みは

杉田議員 防災訓練参加者が余りに少ない。実施側と参加側と慣例的に

杉田議員 防災訓練参加者が余りに少ない。実施側と参加側と慣例的に

杉田議員 防災訓練参加者が余りに少ない。実施側と参加側と慣例的に



村長 議長とともに環境省、東京都を回り、一日も早くと要望してきた。行政機関、民間の協力連携の調整役を村が担うことで、世界自然遺産の危機に対し平穏な形で村民が取り組んで行かれるよう、活動していきたい。官公庁本庁は、契約事務等で所定の手続を踏む段階で、現地の危機感、スピード感と差異が生じてしまふ。皆さんの思いを届け、早急な対策を促す役目であることを認識してやっていきたい。

自然管理専門委員

侵入当初は官民協力して侵入箇所の捕獲柵、トラップ設置、生息地での捕獲作業に重点的に取り組んだ。8月末現在903頭の確認数のほとんどは捕獲し、兄島中心部への侵入は抑制されている。緊急対応ということで、環境省の事務処理も進み、捕獲については島内事業者による事業となったが、柵工事等は契約が遅れている。今後、第2次防衛ラインの柵の設置、生息状況についての計画変更で対応していく。村民への情報提供は、7月に村民説明会を行ったほか、村民の兄島視察も年度内実施を検討中で、取り組み内容がわかるチラシを作成し、全戸配布を予定している。

杉田議員 世界自然遺産の中にあって外来種撲滅は緊急課題だ。国、都が中心にはなるが官民挙げて行っていかなくてはならない。村として、村長としてどう取り組むのか。

兄島の外来種対策は

杉田議員 世界自然遺産の中にあって外来種撲滅は緊急課題だ。国、都が中心にはなるが官民挙げて行っていかなくてはならない。村として、村長としてどう取り組むのか。

杉田議員 世界自然遺産の中にあって外来種撲滅は緊急課題だ。国、都が中心にはなるが官民挙げて行っていかなくてはならない。村として、村長としてどう取り組むのか。

杉田議員 世界自然遺産の中にあって外来種撲滅は緊急課題だ。国、都が中心にはなるが官民挙げて行っていかなくてはならない。村として、村長としてどう取り組むのか。

杉田議員 世界自然遺産の中にあって外来種撲滅は緊急課題だ。国、都が中心にはなるが官民挙げて行っていかなくてはならない。村として、村長としてどう取り組むのか。

杉田議員 世界自然遺産の中にあって外来種撲滅は緊急課題だ。国、都が中心にはなるが官民挙げて行っていかなくてはならない。村として、村長としてどう取り組むのか。

杉田議員 世界自然遺産の中にあって外来種撲滅は緊急課題だ。国、都が中心にはなるが官民挙げて行っていかなくてはならない。村として、村長としてどう取り組むのか。

杉田議員 世界自然遺産の中にあって外来種撲滅は緊急課題だ。国、都が中心にはなるが官民挙げて行っていかなくてはならない。村として、村長としてどう取り組むのか。

杉田議員 世界自然遺産の中にあって外来種撲滅は緊急課題だ。国、都が中心にはなるが官民挙げて行っていかなくてはならない。村として、村長としてどう取り組むのか。

稲垣 勇 議員

母島のシロアリ対策は

稲垣議員

6月の群飛時期を過ぎたが、その後の状況と対応策を伺う。長浜トンネル周辺からの南下への対応や、駆除できなかったはずの蝙蝠谷仮置き場から羽アリが飛び出した原因等、今まで以上に重点を置く必要がある。母島で連携を深めていく必要があるのではないかと。

建設水道課副参事

長浜トンネル周辺以北、蝙蝠谷仮置き場、一元地・静沢、集落周辺の羽アリ群飛調査ほか、蝙蝠谷周辺のモニタリングポイント点検、長浜トンネル以北の営巣探査、駆除を行った。

トンネル以北と、トンネルから南下した猪熊谷のビックベイ案内板間で羽アリが、また生息も確認された。しかしモニタリングポイントで異常は確認されていない。10月の対策事業は、長浜トンネル南側の営巣探査、駆除を重点に実施予定だが、周辺の傾斜がきつく全面探査が難しい状況だ。蝙蝠谷仮置き場内のシロアリ対策は、昨年9月に村、12、2月に都が実施し、

父島で培ったノウハウを母島の対策に生かすとともに、東京都、林野庁との協力の流れを絶やさぬよう取り組みたい。

東京連絡事務所の拡充は

稲垣議員

戸籍証明書等の発行業務について、支障解消に向けた進捗状況、発行数など、現状を伺いたい。村長として、全庁的にどう取り組む考えか。

村民課長

連絡事務所への総合行政システム導入により、戸籍関係の諸証明等の発行が実現できる見通しで、東京法務局と調整を行っている。ただ、個人情報を扱うものなので、そのセキュリティについて、場所、建物への配慮、人員配置の問題があり、財政等も勘案して全庁的に検討し対応していくことになる。戸籍証明書等は千二、三百程度、毎年郵送で発行している。ほかに管轄外だが、税証明等が相当数あると思う。早い時期の実現を導き出したい。

村長

海底光ケーブル敷設で書類の発行等々は設備をすればできるようにするが、今の連絡事務所の形態も変わってくるので、もう少し時間がかかる。

池田 望 議員

職員教育、人材の育成を

池田議員

定年で職員がやめていくが、職員力が低下しないよう資質向上策はとられているのか。①今までの職員教育は、②能力向上に今後どう対応していく考えか。小笠原は歴史的、地理的に特別な自治体であり、特別振興開発特別措置法の下で国や東京都の支援を受け進めてきたことを、新しい職員たちにも教えながら住民サービスをやっていたらいい。

総務課長

職員は、東京都の市町村職員研修所の実施する研修を中心に受講している。新規職員には早い時期に新任研修を受講させており、その際、他の市町村の新規職員との情報交換の場としてもしている。その後、職層別、実務、専門職等の研修もあるが、船便や研修期間との兼ね合い等で受講は余りできていない。今年6月には研修所講師を小笠原に招聘し、主任、主任級5名、係長、課長補佐級11名の研修を実施したが、講師から態度、資質を褒めてもらった。内地研修に出かけにくい課題も、工夫をしながら能



がさわら丸の出入航を機軸に回っており、大変影響を受ける。多くの産業で入航の土日等は繁忙日となり、保育に対応できない家庭が出てくる。土日や祭日保育の対応はできないか。

村民課副参事

村では、延長保育や土曜保育、就学前保育など、保育所の設備や人員体制のできる範囲で実施してきた。自営、サービスマスター等の家庭から、土曜保育のほか、日・祝日保育、一時保育、対象年齢引下げなど要望をもらっている。父島、母島の保育所園舎の建てかえ更新にあわせ、多様化するニーズにこたえるべく、今後の村の子育て支援のあり方、総合的な拠点整備を検討している。振興計画では母島での建設は平成29年度、父島は平成30年度予定だ。

池田議員

お母さんは今困っている。保護者同士のグループで自主保育の提案もある。新しい公共の考え方で、行政としてどんな支援ができるか。

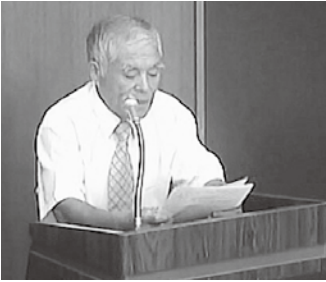
村民課副参事

高齢者や親子活動、学童保育の拠点として父島奥村に設置したふらっとハウスがあり、子育ての場としても活用してもらえると。

保育充実に向け行政支援を

池田議員

村の経済はお



シロアリ対策連絡調整会議をはじめ、関係機関、部署と連携、協力して進めていきたい。

委員会	
活動報告	

平成25年9月12日開催



総務委員会

委員長 稲垣 勇
 副委員長 片股 敬昌

置き場を検討していく。

詳しい国の方針・対応については纏んでいない。

【小笠原諸島世界自然遺産について（継続）】

・経過報告、日程などの説明がありました。

避難所の備品に、水・食料・医薬品等の他に、

ボールやのこぎり、担架等の人命救助に必要な備品も置いて頂きたい

〈一木委員〉

【防災道路の整備について（継続）】

・経過報告、日程などの説明がありました。

ご意見を参考にしながら進めていく。

【沖ノ鳥島・南鳥島について】

・経過報告、日程などの説明がありました。

沖ノ鳥島周辺海域での中国船の動きについて、把握しているのか。

〈池田委員〉

奥村交流センターに重機を置く場所を確保した。今後は都の詳細なハザードマップの提供を受け、他の

報道直後に関係機関に確認を行っているが、外務省が情報を出しておらず、

【小笠原諸島振興開発特別措置法の延長について】

・経過報告、日程などの説明がありました。

自民党の離党振興特別委員会に小笠原小委員会（委員長・石原宏高衆議院議員）を設置してもらった村長の政治的手腕は評価に値する。経緯を教えてほしい。

〈一木委員〉

内地に行くたびに国土交通大臣や副大臣を経験された方に陳情、要望を重ねてきた。議会の皆様も上京の折に挨拶に行っていただけ。その延長線に今回のようなことが実現した。

〈高橋委員〉

特別委員会報告



硫黄島調査特別委員会

委員長 一木 重夫
 副委員長 片股 敬昌

平成25年9月12日開催

きちんと確認していきたい。

【NLPを含むFCIP（空母艦載機着陸訓練）について】

【エアークッション艇訓練について】

【墓参及び慰霊巡拝について】

【硫黄島訪島事業について】

・日程・事業内容等の報告説明がありました。

【遺骨帰還事業について（経過説明）】

遺骨収容事業で天候により中止となった回の方は、実施するよう申し入れて頂きたい。滑走路下の遺骨収容では、滑走路を新設するのと、移設して収容後もとの滑走路を使うのとは作業の意味合いが違ってくる。状況把握をお願いしたい。

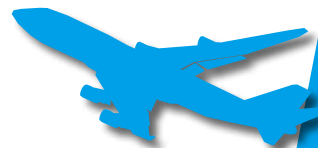
〈杉田委員〉

【その他】

・防衛省から硫黄島アンテナ施設整備の説明を受けたとの報告がありました。この件について委員全員から意見を聞き、一木委員長、片股副委員長で意見を取りまとめ、佐々木議長に委員会としての見解を伝えることになりました。

その結果、小笠原村はこれまでもこれ以上の基地を望まないが、国策に協力していく姿勢をとっており、委員会としては、近年の国防を取り巻く状況を鑑み、アンテナ整備に理解を示すが、事業実施にあたっては村が防衛省に要望している事項を実現できるように、防衛省にはより一層努力してもらおう共に、旧島民の心情に十分配慮すべきとの見解で合意し、委員会としての見解を佐々木議長に伝えました。

平成 25 年 9 月 12 日開催



小笠原空港開設・航路改善特別委員会

委員長 池田 望
副委員長 一木 重夫

【小笠原空港開設に関する経過報告及び今後の対応について】

・陳情先、今後の日程などの報告説明がありました。

問 航空路協議会はもう3年も開催されておらず、

手詰まり感がいなめない。村長は航空路については行政的な動きが多いが政治的な動きはどうか？都議会の中に小笠原の航空路の委員会を作ってもらおう等、村長の政治力が発揮される時ではないのか。
〈一木副委員長〉

答 二階衆議院議員や都議会正副議長らとも航空路について話しをしている。時間をかけてやっていかないと思っている。

問 おがさわら丸の新造にかかわらず、航空路が

村民の悲願であることは間違いないのではないか。
〈高橋委員〉

答 航空路は最大・最重要課題であり、必要不可欠なものであるという考えにかわりはない。

問 長として立ち入れない、話せないものがあるのなら、事務方の立場が重要となってくる。

〈杉田委員〉

答 東京都の実務担当者、良好な関係を築いている。

【小笠原航路改善に向けた経過報告及び今後の対応について】

・おがさわら丸の新造、スケジュールなどの報告がありました。

問 久里浜寄港を定例化するれば、従来通りの出発時刻でも遠方からの来島者の課題点はクリアできるのではないか。
〈一木副委員長〉

久里浜寄港により遠方からの旅行者の利便性は上がったが、同時に課題も出てきた。悪天候の際の調整、海運の負担など、意見を聞いて進めていく。

問 竹芝発を午前11時半から正午で要望したところ、母島のことを考えていない。東京発が遅ればその分母島着時間が遅れてしまう。

答 決して父島中心で議論をしたわけではない。母島からは、現状より到着時間を遅くしないという強い要望が出ている。東京港の信号や竹芝桟橋の他の船との兼ね合いなど、総合的に考慮しており、これらもご意見をとりまとめして進めていく。

答 決して父島中心で議論をしたわけではない。母島からは、現状より到着時間を遅くしないという強い要望が出ている。東京港の信号や竹芝桟橋の他の船との兼ね合いなど、総合的に考慮しており、これらもご意見をとりまとめして進めていく。

問 TSLを導入しようとした際、東京湾の速度規制の特例があったように記憶している。もう一度法制度を確認してもらいたい。
〈鯉江委員〉

早速調査する。

【その他】

問 小笠原海運の片道25%引の島民学生割引の改善はどうなったのか。先の6月議会で東海汽船並の片道40%引きを要望した。また、一般村民も現行の片道25%引(復路50%引き)から、

東海汽船並の片道35%引きに要望するよう執行部に伝えてきたが、進捗状況はどうか？
〈一木副委員長〉

答 6月議会の一木委員の資料の通りだった。その後、小笠原海運の上層部と話をし、島民学生割引、島民割引も東海汽船並に改正する方向で動くということで協議をしている。島民学生割引については今年度の年末年始から適用されるように要望している。

議会の動き

< 9 月 >

- 1 日 ふれあいビーチバレー
- 2 日 防災訓練
- 4 日 全員協議会
議会運営委員会
- 6 日 監査委員意見発表
- 11 日 第 3 回定例会本会議
- 12 日 総務委員会
硫黄島調査特別委員会
小笠原空港開設・航路改善特別委員会
- 13 日 第 3 回定例会本会議
- 17 ~ 18 日 決算特別委員会母島視察
- 26 日 第 3 回定例会本会議
- 27 日 決算特別委員会
第 3 回定例会本会議

< 11 月 >

- 1 日 小笠原協会ツアー
- 12 日 離島振興市町村議会
- 13 日 東京都町村議会議長会
- 21 日 定例会告示
- 23 ~ 24 日 アイランダー
- 27 日 例月出納検査

< 10 月 >

- 1 日 例月出納検査
- 5 日 返還記念パレード
小笠原諸島日本復帰 45 周年返還記念式典
祝賀会
- 6 日 母島小中学校開校 40 周年記念式典
- 17 日 南アルプス市市制施行 10 周年記念式典
- 22 日 島嶼町村議議会臨時総会ほか
- 29 日 例月出納検査

追悼

元小笠原村議会議員の佐々木卯之助氏、佐藤直人氏がご逝去されました。

両氏とも昭和 54 年に村政が確立して初めての選挙で選ばれた、第一期生の小笠原村議会議員です。佐々木卯之助氏は当選 3 回 12 年間務めました。佐藤直人氏は当選 4 回 15 年 11 ヶ月務めて、その後助役として奉職しました。

小笠原村への両氏のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

小笠原村議会

●議会だよりは、紙面の都合上、文章や内容を割愛したり、要約をしたりして掲載しています。

●ぜひ、議会を傍聴してみてください。

●また、会議録のお問い合わせはこちらへどうぞ。

お問合せ先

小笠原村議会事務局

TEL 04998-2-3118 FAX 2-3208

次回の定例会は

12月中旬開会

の予定です



※村役場・福祉センター・母島支所のテレビで議会議中継をご覧いただけます。ぜひご利用ください。

編集後記

友島である大島町で大変痛ましい土砂災害が発生しました。死者 35 名、行方不明者 5 名にも及びました。「みななで小笠原に行こうと楽しみにしていたのに、こんなことになってしまって・・・」

災害翌日のテレビ中継で、大島町民の 1 人が悔しさをにじませていました。おがさわら丸の大島寄港便は災害のために寄港中止になりました。大島町議会議員を 3 期 12 年務めた清水和子先生も犠牲となりました。私達は公務出張中の内地で清水先生の悲報を知り、大変驚きました。

私達は大島町出身の三宅正彦都議会議員を訪れて、被害や現場の様子を聞きました。土砂止めのダムの一部はきちんと機能して、土砂を食い止めることに成功したようですが、大きな被害を受けた地区は想定を遙かに超える土砂量だったそうです。「山の景色が変わった」と三宅先生は話していました。三宅先生のお話を聞いて、「援助や協力できることは何か?」との思いを一人一人の議員が持ったと思います。小笠原村民の中には、いち早く義援金を呼び掛けたり、大島町へボランティア活動に向かう村民の姿もありました。友島の島民同士の絆を強く感じる場面もありました。

今回の災害では下記の行政課題が浮き彫りになり、連日報道されました。

- ・警報よりも上位の「土砂災害警戒情報」が広く大島町民に伝達されなかった
 - ・避難勧告や避難指示を発令する基準とタイミング
 - ・警報としては最上位の「特別警報」が離島ではシステム上発令されない
 - ・東京都の土砂災害警戒区域が離島では調査・設定されていない
- 大島での土砂災害を教訓にして、国と地方自治体の防災システムの検証と改善が求められています。

大島の土砂災害で亡くなられた町民のご冥福をお祈り申し上げますと共に、未だに行方不明の町民が一刻も早く発見されることをお祈り致します。また、負傷され、物的被害を受けられた町民には心よりお見舞い申し上げます。(一木)

議会だより編集委員

高橋 研史
一木 重夫